

一松阪地域（本庁管内）の未来の姿一

地域の現状

松阪地域は、市総人口のおよそ7割を占め、本市の経済の中心を担う地域です。地域内は海岸部から山間部にわたって多様な自然環境を有し、多くの地域資源を保有しています。

かつては商工業を中心に発展してきましたが、現在ではドーナツ化現象とともに中心市街地が衰退してきている中で、新しいまちづくりが求められています。

市民幸せ調査によると、市民の安全・安心と雇用に関する政策へのニーズは前回調査時から引き続いて高く、また障がい者福祉の推進へのニーズが高くなっています。

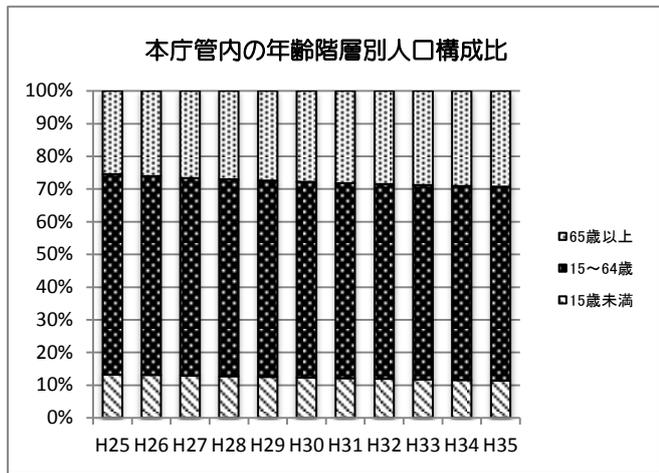
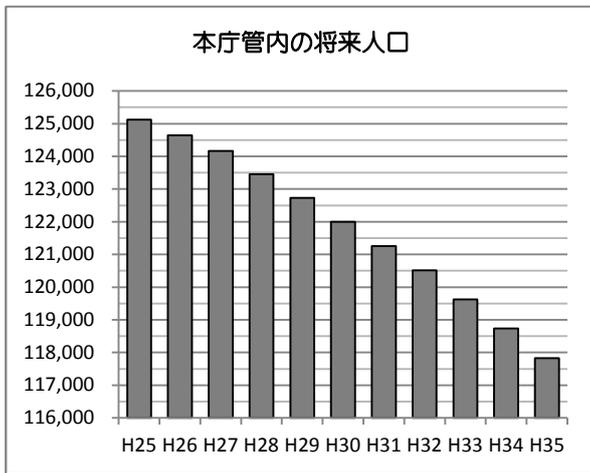
「市民幸せ調査」による 地域の市民ニーズ

優先して求めている施策
・道路・港湾等の整備
・交通安全対策
・防災対策
・防犯対策
・公共交通の整備
・雇用・勤労者対策
・障がい者福祉の推進
・バリアフリー社会の推進

※重要度が高く、満足度が低い項目

地域の課題

- 救急医療体制の維持のため、救急ダイヤル 24 等の救急相談窓口の充実や、市民一人ひとりが「かかりつけ医」をもつことが必要です。
- 10 年後の人口をみると、少子高齢化の進む中での中心部の空洞化と周辺地域の過疎化が進むものと推測され、まちづくりを総合的・戦略的に進める必要があります。
- 沿岸部について、津波への対策は急務であり、避難場所の安全確認と避難訓練を実施する必要があります。
- 増加傾向にある、外国人児童に対する進路相談の充実が必要です。



目指すべき未来の姿

高齢化が進行する地域において、高齢者がいきいきと暮らせるまち、これからの社会を支えていく若い世代が元気に暮らせるまち、さらには松阪地域を訪れる人々にとって魅力あるまちとしたときに、「安全、安心を大切に」まちづくりを目指します。

- 早期発見に検診が大切であることから、がん検診など受診率の向上に向けた啓発に取り組めます。
- 救急医療体制の維持のため、市民一人ひとりが「かかりつけ医」をもつことが大切であることから啓発に取り組めます。
- 学校教育は、こどもの成長に大きく影響を及ぼすものであるが、学校だけでなく、地域、社会が子どもを育てる仕組みづくりを進めます。
- 松阪オンリーワン（松阪市民が全国に誇り得るもの）の創造、育成と連動して、まず、松阪市民の地域に対する認知度を高め、地域を愛する人材の育成を進めます。

一嬉野地域の未来の姿一

地域の現状

嬉野地域は、宅地開発が進む伊勢中川駅周辺では人口が増加している一方で、中山間地域では少子高齢化による人口減少が進んでおり、地域全体の人口は増加傾向にあるものの顕著に二極分化が表れています。

人口動態が異なるだけでなく、中山間地と平坦地では地形や住環境が大きく異なり、行政ニーズも違ってきます。

例として、平坦地と中山間地での防災対策、交通安全対策、公共交通対策は異なった内容になります。したがって、この管内が目指すべき方向あるいは施策も単一の方向性のみではなく、複数の施策を効果的に組み合わせることが求められます。

市民幸せ調査の結果によると、生活道路の整備、交通安全対策、防災・防犯対策に関する政策へのニーズが高くなっています。

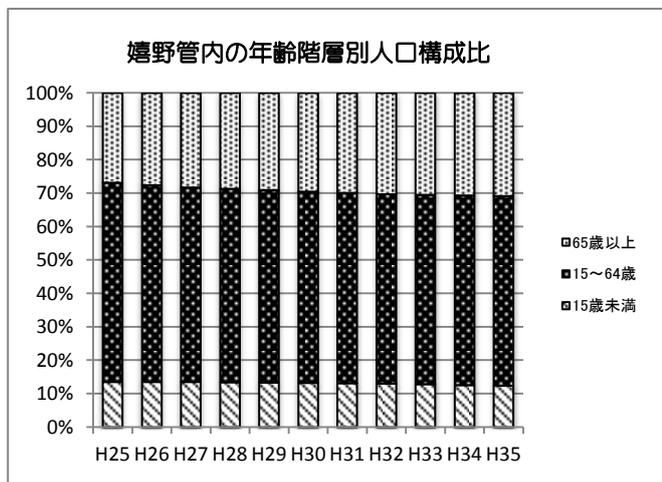
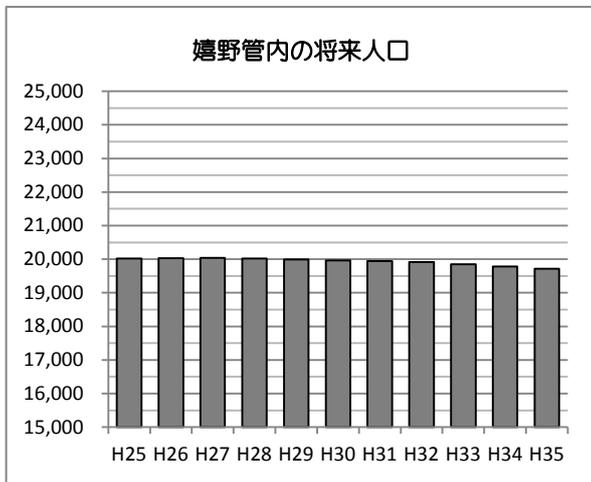
「市民幸せ調査」による
地域の市民ニーズ

優先して求めている施策
・道路・港湾等の整備
・交通安全対策
・防災対策
・防犯対策
・公共交通の整備
・雇用・勤労者対策
・バリアフリー社会の推進

※重要度が高く、満足度が低い項目

地域の課題

- 伊勢中川駅周辺の中川地区はいわゆる都市化が進行しており、以前からの居住者と新しく転入された住民が混在している地域です。そのため、これまで強く維持されていたコミュニティ機能が近年弱くなってきています。同時に、子育て中の若い世代から地域ぐるみで子育てできる環境の整備が求められています。
- 中山間部では、過疎化と高齢化が同時に進行しており、高齢世帯や単身世帯が増加しています。日常生活を送る中でライフラインの確保や交通手段の拡充と生活面での支援が必要となってきています。また、耕作者の高齢化から耕作放棄地が拡大し、サル・イノシシ・シカの獣害対策が急務となっています。
- 平坦部では、少子化の影響から人口が減少傾向にあり、農業振興地域では、農業従事者の高齢化と後継者不足が課題となっています。
また、不在地主が増加し、空き家・空き地の管理不足から、雑草や害虫などの発生など住環境の悪化が懸念されます。
- 各住民協議会では、それぞれの個性に応じた施策を進めることが必要なことから、各住民協議会の組織強化と人材の育成が課題となります。また、地域で安全に安心して暮らせる環境の整備として、交通安全・防犯・防災対策などが求められています。



目指すべき未来の姿

次の世代に引き継ぎたい嬉野は、「ぬくもりと子どもたちの元気な声が聞こえ、みんなが笑顔で明るく過ごせる嬉野」です。

小さなコミュニティのつながりや絆を基に、地域みんなが「子どもや高齢者」を見守っている、誇りある「ふるさと嬉野」です。地域の自然・歴史・文化・産業など様々な資源を活用するため、人と人、地域と地域、地域と団体・企業が連携を深め、広い視野と行動力で交流を促進していきます。

○ 地域ぐるみで子育て

子どもを育てる環境としては、核家族化と地域社会の希薄化から子育てに不安を感じる母親の数が多いと推察されます。その不安を軽減することが健全な育児環境を整える一つの策となります。地域の知恵や経験を若い家族とリンクさせる仕組みを創り、思いやりと優しさを備えた創造力豊かな子どもを育てていきます。

○ 異世代間の居場所づくりと交流

同世代内は比較的交流の機会があるものですが、それだけでなく、異なる世代間での交流も新鮮で好ましいものです。高齢者世代と子育て世代や子どもたちとの交流は、相互に良い刺激や影響を与えあい、知恵や経験を受け継ぐこともできます。新しいサークルやいきがい活動の機会や場を提供することで、コミュニティを形作る人と人とのつながりを築くことができます。

○ 地域のビジネスプランと交流

嬉野には誇れる地域ブランドである嬉野大根や島田びわなどがあります。これまで見逃されていた産物を地域資源として地域・関係機関・企業団体と連携しながら商品開発に着手し、物産の品質向上に努めます。

また、嬉野物産振興会と地域商業施設との協働を支援し、地域産品の認知度向上に努めます。

○ 人材育成

地域の持つ力を最大限に活かすために、そして継続的に力を発揮していくためには一人ひとりの力を高めることとともに、組織体制を持続させていくことが必要不可欠です。これまで企業内で活躍されてきた団塊の世代が持つ貴重な技術やノウハウを発揮してもらい周囲にも伝えながら、さらにボランティア登録制度など人材を活かす機能を充実させ、大きな広がりをしていきます。

—三雲地域の未来の姿—

「市民幸せ調査」による
地域の市民ニーズ

地域の現状

優先して求めている施策
・道路・港湾等の整備
・防災対策
・交通安全対策
・雇用・勤労者対策
・公共交通の整備
・バリアフリー社会の推進

※重要度が高く、満足度が低い項目

三雲地域は、宅地化の進展により市内の他の地域には見られないほどの急速な人口増加が進んでいます。それに伴い、核家族世帯が増加し、地域における子育ての環境やコミュニティの形成など、地域のまちづくりの状況が変化しています。

3.11 東日本大震災以後、市民幸せ調査にも表れているように、道路・港湾の整備や防災対策、交通安全対策の整備など、市民の安全・安心に関する政策へのニーズが高くなっています。また、地域の移動手段としての公共交通の整備へのニーズも高まっています。

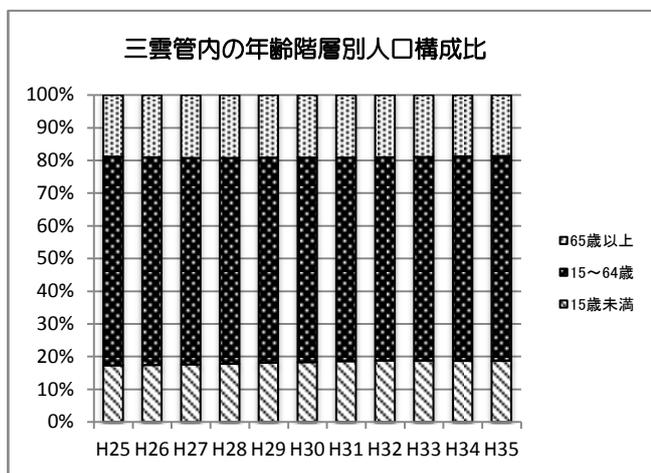
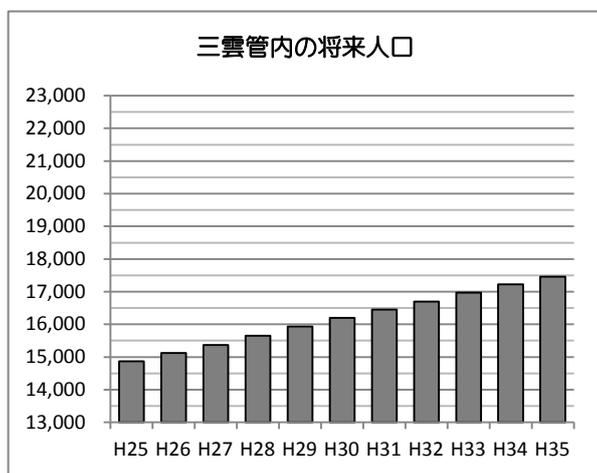
一方、都市計画区域の決定が行われ、これまでのように、顕著に進んできた農地の宅地化については、一定の落ち着きを見せることとなります。しかし農地が減少したことによる、農地が持つ遊水機能の低下による浸水被害が懸念されています。

また、地域からは松浦武四郎や伊勢街道などの歴史・文化遺産や、海岸をはじめ碧川河口周辺等の自然環境などの地域特性である「三雲らしさ」を大切にしたまちづくりが求められています。

このような状況の中、住民活動の展開など、地域でできることは地域で計画し、提案、実行しようとする気運が高まっています。

地域の課題

- 南海トラフ地震等の発生による被災が懸念される中、海に面している地域として住民の防災対策への関心は非常に高く、万一、大地震による大津波に襲われたとき三雲地域の大半が浸水対象地域となることが想定されています。そのような状況の中「自助（個人）／共助（地域）／公助（行政）」、その「共助」の部分で、防災・減災について地域、自分たちでなにができるかを検討することが必要です。
- 近年都市化が進む中、隣近所にどんな人が住んでいるかわからないという状況が起っています。地域での活動へ新しく居住されたかたや集合住宅の方々の取り込みやひとり暮らしのお年寄りなどをどのように把握していくかが課題となっています。
- 三雲地域では、宅地化の進展により核家族が増加傾向にあります。それに伴い、子育てに不安をかかえる世代が増えています。そのような状況の中、三雲地域の特色を生かし、子育て世代へ情報収集できる場の提供や機会づくりが必要です。
- 地元の農水産物を活用した独自商品を販売する場所や仕組みがない現在、地域の営農組合組織が地域とかわる必要があります。営農組合や個人の担い手、定年退職を迎えた人たちが意欲を持って取り組めるようになるためにも組織や直売所づくりが課題で、その効果は耕作放棄地を減らしていくことが期待できます。また、漁業については施設整備により、地域の特色あるアオサノリ生産とその漁場を守る必要があります。
- お年寄りも含め交通弱者にとって、三雲管内で運行するコミュニティバスをはじめとする公共交通について、地域主導により守り育てていくことが必要です。



目指すべき未来の姿

三雲地域の多様な地域資源や特性を活用して「住みたい、訪れたい」地域づくりを進めるとともに、「地域の誇り」が持てるだれもが安心して暮らせる一体感のあるまちを目指します。

また、住民協議会など地域住民の自発的な活動などと連携しながら、同時に住民ニーズの的確な把握に努めた地域づくりを地域とともに進めます。

○ 地域住民の防災意識の高揚を図る

地域住民の防災対策への関心が非常に高い中、自治会活動などを利用して地域の防災コーディネーターから、避難所運営など防災に関する知識や知恵を学ぶ機会づくりを進めます。また、子どもたちに対しては、日ごろからの学校での防災教育や家庭での「避難場所の確認」などの働き掛けを行います。

○ 地域住民の交流連携に向けた取り組み

「地域の誇り」が持てる一体感のあるまちの実現のために、万一の災害発生時に備え、民生委員児童委員や自治会などの協力を得ながら、弱者であるひとり暮らしのお年寄りやお年寄り世帯などの把握に努めます。また、地域での交流事業などを活用し、地域住民に対して幅広く交流の輪を広げます。

また、今後、移動や買い物困難世帯の増加が考えられるので、地域住民が利用しやすい地域公共交通を地域主導で考え、地域内外への人の流れを活発にします。

○ 三雲らしい子育て支援への取り組み

地域全体で子どもを守り、育て、生き生きと安心して学び遊べる環境づくりを目指すために、三雲南幼稚園に併設されている子育て支援センターや公民館などとの連携により、子育て情報を広く発信します。そして、住民協議会と公民館との協働により三雲の豊かな自然に触れ合う機会や、夏祭り、ふれあい祭りなどの各場面で三雲地域の特色を活用した子育てを展開します。

○ 後継者の育成と地産地消への取り組み

農業を取り巻く地域の団体により、将来の農業経営について集落単位で話し合う機会を持ち、農家の担い手の育成と地域の農業が継続できるよう、価値観を共有する地域住民、学校、消費者を巻き込んだ活動を展開し地産地消を促すことにより、耕作放棄地の発生抑止へとつなげます。また、漁業では、生産環境の整備を通じて後継者の育成を図るとともに、特産品のブランド化への支援を行います。

一飯南地域の未来の姿一

地域の現状

飯南地域は、87%を森林が占めている中山間地域であり、少子高齢化等によって過疎化が進んでいます。

飯南管内の人口（国勢調査）は、平成2年の6,891人から、平成22年には5,299人と23%減少し、合併時の平成17年5,800人と比較しても9%減少しています。高齢化率は、平成2年の23.8%から、平成17年が33.7%、平成22年には35.8%となっており、高齢者のみの世帯も平成2年の221世帯から、平成22年には482世帯と約2.2倍増え、一人暮らし老人も平成2年の111人から、平成22年には208人と約1.9倍増えています。

「市民幸せ調査」による
地域の市民ニーズ

優先して求めている施策
・防災対策の整備
・交通安全対策
・雇用・勤労者対策
・高齢者福祉の推進
・バリアフリー社会の推進

※重要度が高く、満足度が低い項目

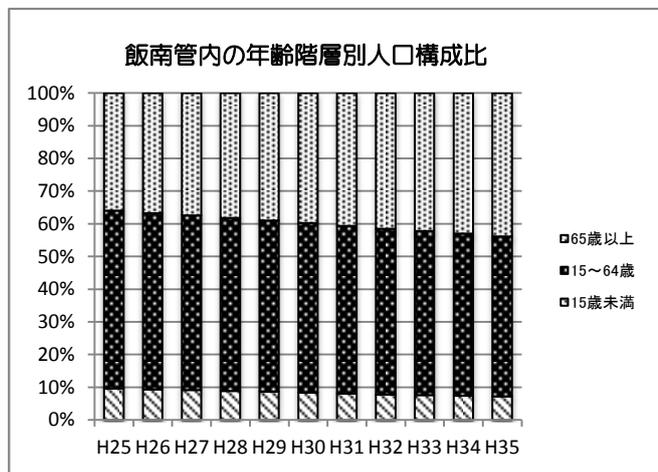
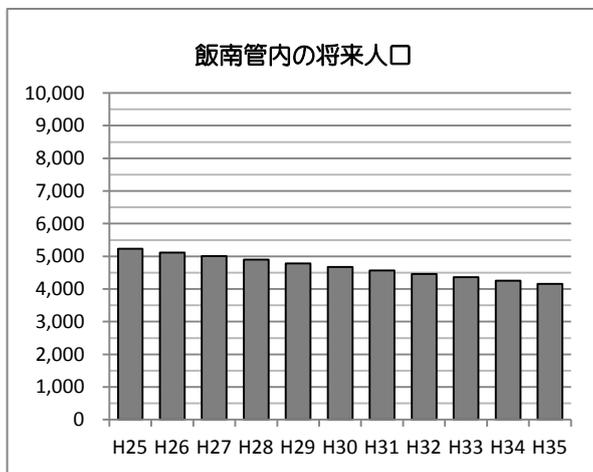
少子化の状況としては、小学生の人数を平成元年度と平成25年度の4月当初で比較してみますと、平成元年度の499人から、平成25年度には224人と55%減少していて、平成30年度には165人になると推計されます。

農林業の現状としては、農林業センサス平成17年と22年を比較すると、農林業経営体数は332から239と28%減少し、耕作放棄地面積は37haから48haと30%増加しています。

市民幸せ調査によると、市民の安全・安心と雇用に関する政策へのニーズ前回調査時から引き続いて高くなっています。

地域の課題

- 高齢化が進む中、高齢者が安心して生活できるよう、生活支援や安否確認をするための見守る仕組みが必要です。
- 若者の都市部への流出等により空き家が増加しており、平成24年度に実施した自治会の調査では、110軒もの空き家を確認しています。そこで、空き家の有効活用を検討し、若者の流出を食い止めるとともに、地域外から若者を呼び込み、この地で定住できるような仕組みが必要です。
- 防災については、まず、隣近所との助け合いを含め、いかにして自分の命を守るか、次に、自治会（自主防災組織）や住民協議会が十分に連携し、いかに住民が互いに助け合うか、そして想定される大災害に備え十分シミュレーションすることにより、自助、共助、公助の役割分担が必要です。
- 農林業の低迷による農林業従事者の高齢化や増加する鳥獣害は生産性の低下を招き、耕作放棄地の増加や森林の荒廃へとつながっていて、その対策が必要です。
- 飯南地域には、他の地域と異なり地区市民センターや地区公民館などの施設がなく、住民協議会の活動拠点が確立していないことから地域に応じた活動拠点施設が必要です。



目指すべき未来の姿

若者等の定住促進と地場産業の振興を図り地域の活力を創出するための仕組みや、高齢者が安心して暮らせる仕組みを構築し「若者と高齢者が共存できるまちづくり」を目指します。

- 移住希望者が、飯南地域を体験するため長期滞在できる施設や、既に住んでいる住民と交流することを推進する仕組みを検討し、若者の定住を促進するため、空き家を有効活用する空き家バンク制度や、地域材やあかね材を利用した改修および水周りの改修を対象とした空き家リフォーム補助事業などの仕組みを構築し飯高地域との連携を図りながら交流移住に取り組みます。
- 高齢者が安心して暮らせるよう生活支援の仕組みを構築します。住民協議会や地区福祉会と連携することにより、元気な高齢者が、要援護者を見守る体制、コミュニティバスの高齢者のための効果的な運行、有償移送サービスや配食サービス、買い物支援、家事支援などの仕組みを検討します。
- 住民協議会の活動拠点を確立することで、地域住民が交流し、まちづくりの相談や地域課題に取り組める体制を整えます。
- 小・中・高校まで同じ地域で教育を受けられる恵まれた環境を生かして、これらの教育施設と地域との連携を深め、地域の見守り・関わりの中でより安心して子どもを育てる環境を築いていきます。
- 防災の取り組みとしては、要援護者等の防災カルテの仕組みを構築するとともに、山地災害危険箇所への治山ダムなど防災施設の整備を図ります。
- 継続した農地の保全については、誰もが農家となり、農業に参入できるよう規則を緩和することや、鳥獣被害の減少を目指し、猟友会の組織強化を図ります。また、耕作が困難な農地を所有者に代わり継続保全する担い手の組織づくりの取り組みやこれらに対する支援制度を検討します。
- 自然環境の保全や森林の荒廃防止のため、間伐材等の林地残材を木質バイオマス燃料として有効活用するなど、森林組合と協力しながら取り組んでいきます。
- 地域の特産品「お茶」や「地物野菜」などを利用した食育と交流、マーケティング活動により、需用の拡大につなげます。
- 「富士見ヶ原」「深野だんだん田」「伊勢本街道」「春谷寺エドヒガン桜」などの地域資源を整備して有効活用し交流人口の増による地域活性化を図ります。

一飯高地域の未来の姿一

地域の現状

飯高地域は、市域の3分の1を占める広大な面積を有し、その95%が森林という典型的な中山間地域で、少子高齢化や産業構造の変化に伴い、過疎化が急激に進み、特に基幹産業である林業や農業、建設業の衰退で地域社会の活力が極端に低下しています。

また、伊勢湾台風等による被害を教訓に、災害に強い安全なまちづくりを目指し、防災や治山治水事業、道路整備、情報の伝達施設等の整備に精力的に取り組んできましたが、これらの施設は建設から長年が経過して老朽化が進んできています。飯高管内の人口は、合併時の平成17年の5,002人から平成22年には4,344人と減少し、65歳以上の人口割合は44.1%と市内で最も高く、福祉医療関係では、救急医療や高齢者等の交通手段の問題が深刻化しています。また、15歳未満の人口が、平成17年の527人から平成22年には379人に減少したことに伴い、管内小中学校の児童生徒数も激減しており、早急な少子化対策が望まれます。

農林業においては、先人が守ってきた森林は荒廃が進み、農地は後継者不足や獣害被害により、耕作放棄地が多々見られるようになってきました。ひいては、集落維持にも支障をきたし、消滅の危機にもなっています。

市民意識調査によると、防災対策の整備が最も高く、また、少子化と働く世代の減少に伴って、雇用に関する政策へのニーズが依然として高い状況にあります。

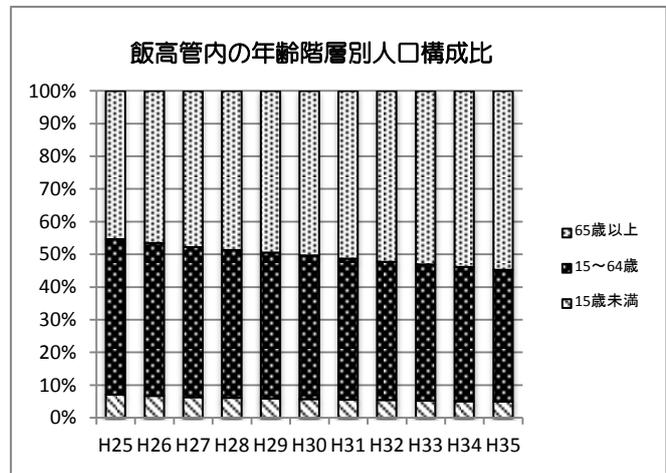
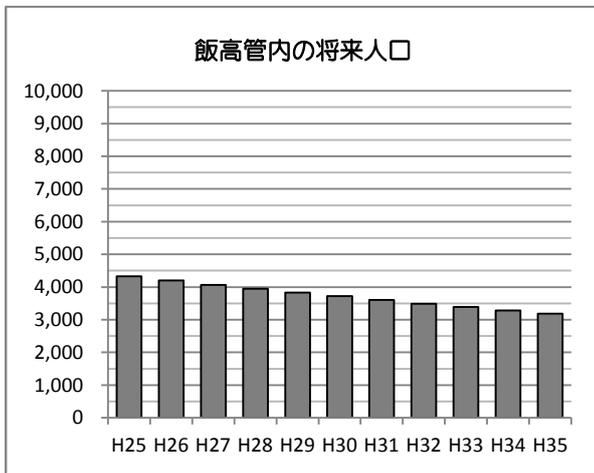
「市民幸せ調査」による
地域の市民ニーズ

優先して求めている施策
・雇用・勤労者対策
・公共交通の整備
・道路・港湾等の整備
・交通安全対策
・防災対策
・保健・医療の推進
・障がい者福祉の推進
・バリアフリー社会の推進

※重要度が高く、満足度が低い項目

地域の課題

- 地域の魅力を生かし、生きいきと暮らしていくためには、住民協議会の充実、高齢者等の生きがいづくり、歴史・文化・豊かな自然等の次世代への継承等のため地域力の育成が必要であるとともに、地域資源の活用による地域振興と働く場の確保も必要です。
- 健やかで安心して暮らせる地域を確立するために、生活基盤の整備が必要です。



目指すべき未来の姿

変わることのない広大な自然を背景に、今以上に手を携えながら山里を守っていくため、「自然と人の営みが調和し、いきいきと暮らせるまちづくり」を目指します。

地域住民がこれまで積み重ねてきた「地域の素晴らしさ」「地域のあたたかさ」を次世代へつなげていくとともに、飯高地域に住みたい、飯高地域に住んでよかったと実感できる地域づくりを進め、地域の声を政策に反映し、資源を活用した個性あるまちづくりを進めます。

○ 中山間地の魅力を生かした暮らしができる地域力の育成

中山間地の魅力を活かすため、住民協議会を通じた活動の充実と、地域を担う人の育成や高齢者の生活支援と生きがいづくり、地域資源の次世代への伝承を図ります。また、空き家を有効活用することにより、地域の担い手となる若者の定住促進などを図り、地域が持つ地域力を向上させていきます。

○ 中山間地の特性を生かした働く場の確保

地域資源を活用した地域産業の活性化や観光施設のあり方を再検討し現在のニーズにあった観光の振興を行うとともに、それらを通じて働く場の確保を図ります。

○ 安全で安心して快適に暮らせる基盤づくりの推進

住民の安全・安心な生活を目指し、防災や福祉、教育、公共交通などの生活基盤の整備を進めます。

○ 飯南地域との連携強化

地域ブランドの確立、観光の振興、空き家対策など飯南地域との連携を強化し、広域的な施策を展開していきます。